

政策研究センター リサーチ・プロジェクト 成果報告書

提出日: 2021/2/20

申請者(リーダー): 氏名 飯塚倫子 職名 教授

リサーチ・プロジェクト名:

(和文) 破壊的・インクルーシブなイノベーションとSDGsの達成: 事例からの理論への示唆
 (英文) Disruptive Inclusive Innovation and meeting SDGs: insight from the case studies to theories

期間(yyyy/mm/dd): 2020年4月 から 2020年2月28日 0年間

共同研究者:	氏名	職名	所属機関・部局名	(備考)
共同研究者1	ジェラルド羽根	セニアエグゼクティブ	日立アジア、GRIPS 客員研究員	応募当時
共同研究者2	鈴木和泉	専門職、	GRIPS	応募当時
共同研究者3				
共同研究者4				

SDGs達成には社会経済システム変革が喫緊の課題 (IIASA, 2018; Schot & Steinmeuller, 2018) である。しかし、変革 (トランスフォーメーション) は 1) 組織における慣性の法則 (Institutional inertia) 2) 既得権限を握る既存の従事者 (Vested interests) 3) 緩やかな個人々の行動規範の変化 (Routine) によって阻まれる。つまり個人、組織、社会のレベルで現状維持を志向するため、論理的に良い選択肢があるだけでは変革は起こりにくい。特に代替案が現状よりも実施困難である場合、基本的に対応を先送りにし、現状維持の延長線上での改善策を試みる。つまり根本的な経済活動の経路を変更するには現状より優れた「モノやサービス」(技術、イノベーション) と、それらを利用者に提供する市場や制度による仕組み (エコシステム) の構築が急務である。本研究ではすでに既存システムに変革を起こしつつある事業者の活動を事例と取り上げ、エコシステム形成について理解を深め、理論構築、政策に生かすことを目指す。

研究成果の概要(800字程度) ※新型コロナウイルスの影響により、予定どおりの実施が難しかった場合にはその理由:

本研究では、日本、アジアで活動し、既存システムの変革をもたらす「破壊的、インクルーシブ・イノベーション」を展開するビジネス事例をいくつかとりあげ、エコシステム形成について精査、類型化を行なった。「破壊的、インクルーシブ・イノベーション」は、今までと異なる形で社会的課題により簡易かつ廉価な解決策を提供する「破壊的イノベーション」(Christiansen, 2000他) であるとともに、今まで利用者でなかった層も取り入れる「包摂的イノベーション」(Heeks et al, 2014 他) である。具体的にはベンチャーキャピタル、クラウドファンディング、社会インパクト投資、デジタルベンチャーなどを取り上げ、創業者へのインタビュー、既存資料をもとに事業の拡大、継続を可能としたエコシステムの形成状況を比較した。

この結果、全ての事例で事業の拡大、継続を可能とするエコシステムを形成が確認され、その形態は2つあることが分かった。一つは外部に協力者を作ることによって拡大し、プラットフォームを形成する外部性依存型 (externality dependent risk sharing/dispersion) であり、もう一つは内部の協力者間 (バリューチェーン) の協力関係を堅固にして、一緒に事業を横展開する内部協働型 (internally collective risk taking) である。いずれの型も政策の介入を得ず、価値の創造とリスクへの対処機能を持っている。

本年度は結果をワーキングペーパー (SciREX, UNU-MERIT) を作成、対外的に発表 (セミナー、学会) も行なった。また本研究の事例であった社会インパクトファンドについてのセミナーを公開で行い、海外、国内の取り組みについて議論を行なった。社会インパクトファンドは、「破壊的、インクルーシブ・イノベーション」を起すために必要な資金を今までにない方法で融資するファンドである。新型コロナによる変革への影響についての言及は、情報が分析できていないため、今年度行えなかった。本件で対象とした事業者は新型コロナ禍、それぞれ新しい試みを行なっているため、この点については入手した情報を継続的に分析したい。

研究成果:

[別紙\(\(成果報告書\(研究成果一覧\)\)に記入](#)

その他、研究成果として特記すべき事項:

(全ての項目含め、1頁以内で記述してください。)

成果報告書(研究成果一覧)

研究成果一覧:

(発表予定を含む。但し、投稿中、投稿準備中は除く。別紙一覧でも可。)

(必要に応じて適宜追加)

論文((学術雑誌(総合雑誌(文藝春秋、中央公論、世界)を含む。))等掲載)

※査読付きのものは、査読欄に「1」を入れてください。

※共著論文の場合には、ご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。

※国際共著とは、異なる国を拠点とする複数の研究者による共著論文を意味します。

著者	³ 標題	雑誌名 /所収図書 ⁰ の編者・図書名・ 出版者等	巻・号 /章・節	¹ 発行年	開始 ペー ジ	終了 ペー ジ	⁰ 査読 ペー (有=1)	⁰ 国際共 著 (yes=1)	DOI	⁰ オープン アクセス (yes=1)
1	<u>Michiko Iizuka</u> & Gerald Hane	SciREX center working paper	SciREX- WP- 2020-05	2020	1	46				
	Features of ecosystems to advance disruptive inclusive innovation for the Sustainable Development Goals: Five global case studies									
2	<u>Michiko Iizuka</u> & Gerald Hane	UNU-MERIT Working paper	WP20 21-01	2021	1	26				
	Transformation towards sustainable development goals: Role of innovation ecosystems for inclusive, disruptive advances in five Asian case studies									
3	飯塚倫子	持続可能な開発に対して科 学技術政策が与えるインパ クト:破壊とインクルーシ ブを目指すイノベーション	政策オピニオン, 一般 財団法人平和政策研究 所	No. 183	2020	1	13			
4										
5										

図書:

※共著の場合にはご自身の名前の下にアンダーラインを引いてください。

※書籍の一部分のみを執筆した場合には論文の区分に含めてください。

著者・編者	⁰ 図書名	出版社	発行年月	総ページ数
1				
2				
3				
4				
5				

口頭報告・学会発表等:

※査読付きの学会論文集は「論文の区分」で報告し、査読なしの学会論文集は「学会発表の区分」で報告してください。

※招待講演については、学会等名の後に(招待講演)と明記してください。

報告者等	² 論題	学会・研究会名等	報告年月日	開催場所
1	<u>飯塚倫子</u>	国際開発学会The 31st JASID Conference	December, 6th, 2020	オンライン (Tsuda University)
	Features of ecosystem to advance DII for the SDGs:five Asian Case studies			
2	<u>飯塚倫子</u>	ICUS懇談会一般社団法 人 平和政策研究所(招 待講演)	9月18日	アルカディア市ヶ 谷
	持続可能な開発に対して科学技術政策が与える インパクト:破壊とインクルーシブを目指すイノ ベーション			
3				
4				
5				